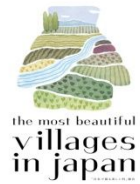


美しいむらづくりネット

No. 9 (平成22年12月20日) 馬瀬地方自然公園づくり委員会

TEL 0576-47-2111



こんなことあんなこと会の動き

今年の地方自然公園づくり委員会は、昨年度作成した新たな5カ年計画の実施に向けて次のような活動を行ってきました。◎ウォーキング部会では、地域内を巡るウォーキングコースづくりを進め、この秋、大野地区を巡る「南部コース」では、同部会を中心とした委員の手づくりによる「丸木橋」が完成するなど、全コースの完成も近くなりました。◎特産品部会では、「郷土のトマトジャム」づくりに挑戦しています。試食結果は「美味しい。少し甘すぎ。」などの意見で、現在改良を重ねており商品化を目指しています。郷土で取れた新鮮なトマトに一層の付加価値をつけて、馬瀬からのお土産品となることを目標にしています。また、「馬瀬・21世紀健康の森」(薬木園)の「ホウノキの葉を、「ほう葉寿司」用として利用したいと期待しており、葉が採集し易いよう整備も手掛けました。さらに、「鮎販売のぼり旗」を設置しましたが、その効果は今後期待というところです。◎情報発信部会は、ホームページの活性化に向け、地域内の方から記事掲載



ホオノキの剪定をする葛本委員

を依頼することに。また、明宝レディース、明宝ハムで有名になったお隣の郡上市(旧明宝村)の皆さんの活動ぶりを紹介するなど、「先進地に学ぶ」ための情報収集を行っています。その他、ポスター、ステッカー、美しいむらづくりネットの作成を行ってきました。

馬瀬の体験メニュー提案

このほど、下呂市が進めている市内各地域の体験メニュー調査に、委員会から提案することになりました。これは、下呂市が作成した観光計画に基づき、市内各地域の観光資源、施設又は活動拠点において、体験メニューとして今後の具体的な取り組みを提案するものです。馬瀬地域で何が提案できるかを検討し、地域全体の総意として活動や事業化ができるものを挙げて行く必要があります。提案は、それぞれの部会からとし、これまで延々と議論してきましたが、これといった対策や、地域に経済効果をもたらすような具体的な取り組みがなされていません。是非とも地域の経済効果が期待できるものを掘り起こし、全体会議で議論し、新年早々には市へ提案しようとしています。

これでいいのか薬木園

薬木園は、日和田トンネル入り口付近の山で、村が平成12年に592万円で購入し、平成13年度に地形測量、歩道作設、薬木14種、400本の植栽、翌14年度に薬木の補植、鹿の食害防除ネット及び案内板等を作設し、「村民や観光客が広く健

康づくりに利用できるよう」という目的で整備されました。その後、下刈等の保育作業が行われ、毎年、水野瑞夫岐阜薬科大学長による指導を受け、併せて約1700万円の経費が投じられました。しかし、残念ながらホオノキ、タムシバンの2樹種以外はほとんど壊滅状態になっています。生育しなかった原因はいくつか考えられますが、植栽方法も、薬木をスギやヒノキと同様の植え方をしたこと、また、雑草とともに生育する樹種も、毎年下刈をしたことがかえって枯損原因となったと考えられます。今年、女性委員らは、ホオノキの葉を採集しようとしたのですが、雷で葉が損傷し使用できませんでした。委員会では今後、この山をどうするかを話し合うこととしています。良いお考えがあったら提案してください。

シリーズ「こんにちは、お店紹介」

「スローフード 橙」

今回は、平成13年秋に、荻原に開店されたスローフード「橙」をご紹介します。新築した木造平屋建てのこの店舗には、毎年この時期になると薪ストーブが赤々と焚かれ、多くの方々の憩いの場所となっています。地域のみならず隣接の町をはじめ、釣りやハンター、アウトドアを目的で遠く名古屋など中京圏からの来訪者も、橙ファンとなって立ち寄られています。経営者ふみちゃんこと森本富美子さんは、かつて馬瀬村が実施したフランス山村調査団に参加し、かわいらしい村々、心なごむ森や草原、伝統的な生活と料理、何かを発見したい人やどこかで余暇を過ごそうという人を引き付ける魅力を、この地域で再現したいと考え、誰にも頼らない身の丈のお店を目指して開店に踏み切ったそうです。

地元の農作物や山菜を使ったスローフードの食事は、春は山菜、夏は鮎、秋はキノコ、冬は猪肉など、素朴な美食として多くの人をひきつけています。（取材 naka）



店舗のふみちゃんこと森本富美子さん

女性消防団員募集

火災を未然に防止するための地域の防火指導や防火についての広報活動を主な役目とする女性消防団員を下呂市消防団馬瀬方面隊が募集しています。火災現場へ駆けつけて消火活動をする男性団員とは異なり、昼間は男性が仕事に出て、地域は高齢者と女性、子供たちだけとなりがちな馬瀬地域では、いま女性消防団員として活躍したいという活発な女性からの連絡を待っているとのこと。来年4月1日入団、成人女性ならどなたでも。これは、下呂消防団馬瀬方面隊からの依頼でした。

編集後記

年の瀬は、江戸時代には庶民にとって年を越えることも一苦労で、このことを越えなければ死をも待っている川の流の速い「瀬」に喩えられたそうです。編集子は、若いころから全国、いや全世界の人々に公平に訪れるお正月が大好きでした。さて、来年は、馬瀬の遺産ともいべき薬木園を何とかしなきゃ。ですね。村づくりネットをよろしく願います。（naka）